

調査結果の概要

1 要 旨

平成18年産主要果樹の結果樹面積は22万6,800haで、前年産に比べ3,600ha（前年産対比2%）減少した。

これは、おうとう、うめで新植したものが結果樹齢に達し増加したものの、他の果樹で生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等があったためである。

収穫量は302万1,000t、出荷量は266万tで、前年産に比べてそれぞれ48万3,000t（同14%）、43万3,000t（同14%）減少した。

表1 平成18年産主要果樹の結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
					結果樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
1) 計	ha 226 800	kg ...	t 3 021 000	t 2 660 000	98	...	86	86
み か ん	50 300	1 670	841 900	743 200	98	76	74	74
な つ み か ん	3 350	1 740	58 100	50 400	95	100	94	94
は っ さ く	2 560	1 930	49 400	42 200	95	101	96	97
い よ か ん	6 390	1 340	85 700	76 900	94	85	79	80
ネーブルオレンジ	951	1 100	10 400	8 580	91	88	79	79
り ん ご	40 300	2 060	831 800	739 500	99	102	102	102
日 本 な し	14 900	1 960	291 400	266 600	98	82	80	80
西 洋 な し	1 760	1 610	28 300	24 700	100	88	88	87
か き	23 500	990	232 700	186 700	99	82	81	81
び わ	1 780	343	6 100	4 880	94	96	91	91
も も	10 300	1 430	146 300	133 900	100	85	84	83
す も も	3 090	692	21 400	18 400	99	81	80	79
お う と う	4 490	464	20 800	18 400	103	106	109	109
う め	18 000	664	119 700	101 100	101	96	97	96
ぶ ど う	18 900	1 120	210 500	191 800	99	97	96	96
く り	23 300	99	23 100	16 200	98	108	106	109
2) パインアップル	3) 441	2 420	10 700	10 400	100	103	103	103
キウイフルーツ	2 470	1 320	32 500	26 500	96	93	89	88

注：1)計は、18品目の合計である。

2)パインアップルは、沖縄県のみの数値である。

3)パインアップルは、収穫面積である。

2 解説
 (1) みかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は5万300haで、前年産に比べて1,200ha(前年産対比2%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園や優良晩かん類への転換等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,670kgで、前年産に比べて530kg(同24%)下回った。

これは、3月から4月の低温や開花期以降の日照不足により結果数が少なかったこと及び8月以降の少雨の影響で果実の肥大が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は84万1,900t、出荷量は74万3,200tで、前年産に比べてそれぞれ29万100t(同26%)、26万1,800t(同26%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、和歌山県が18%、愛媛県が15%、静岡県が14%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図1 みかんの結果樹面積及び収穫量の推移

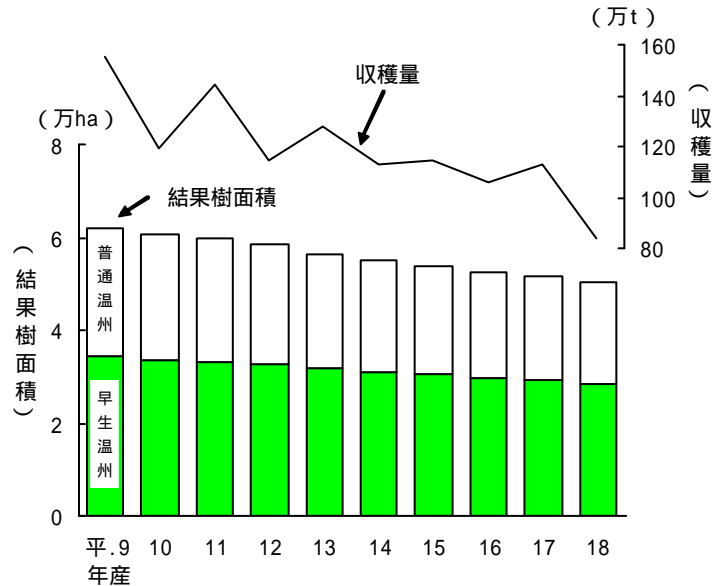


図2 平成18年産みかんの都道府県別収穫量割合

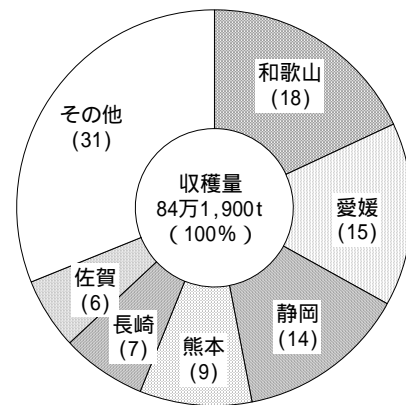


表2 平成18年産みかんの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
みかん	50 300	1 670	841 900	100	743 200	98	76	74	74
早生温州	28 600	1 700	487 600	58	440 200	98	74	72	72
うち、ハウスみかん	960	4 600	44 100	5	41 900	87	101	88	89
極早生みかん	9 060	1 530	138 200	16	125 100	98	74	72	72
普通温州	21 700	1 630	354 300	42	303 000	98	79	78	77

(2) なつみかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は3,350haで、前年産に比べて190ha（前年産対比5%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園や優良晩かん類への転換が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,740kgで、作柄の悪かった前年産並みとなった。

これは、前年産と同様に果実肥大期の少雨の影響から、果実の肥大が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は5万8,100t、出荷量は5万400tで、前年産に比べてそれぞれ3,600t（同6%）、3,200t（同6%）減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、熊本県が22%、愛媛県が19%、鹿児島県が15%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図3 なつみかんの結果樹面積及び収穫量の推移

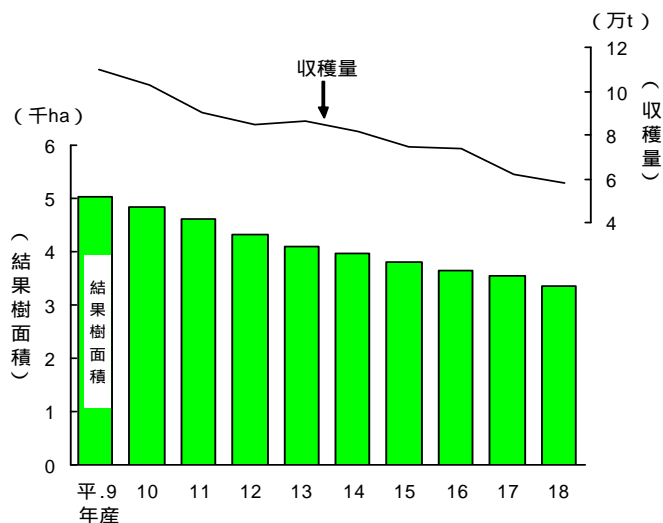


図4 平成18年産なつみかんの都道府県別収穫量割合

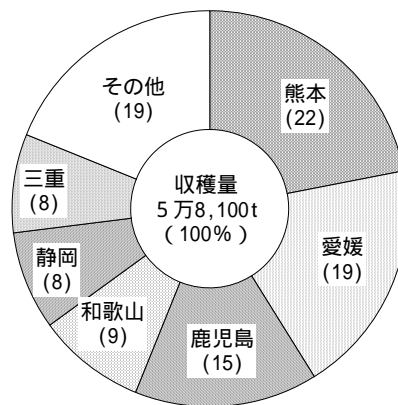


表3 平成18年産なつみかんの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
なつみかん	3 350	1 740	58 100	50 400	95	100	94	94

(3) はっさく

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,560haで、前年産に比べて130ha（前年産対比5%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園や優良晩かん類への転換が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,930kgで、前年産に比べて20kg（同1%）上回った。

これは、和歌山県において、8月以降の少雨の影響で果実の肥大が抑制されたものの、高温、少雨の影響により作柄の悪かった前年産に比べるとやや良好となったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は4万9,400t、出荷量は4万2,200tで、前年産に比べてそれぞれ2,000t（同4%）、1,300t（同3%）減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、和歌山県が61%、広島県が14%、愛媛県が8%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図5 はっさくの結果樹面積及び収穫量の推移

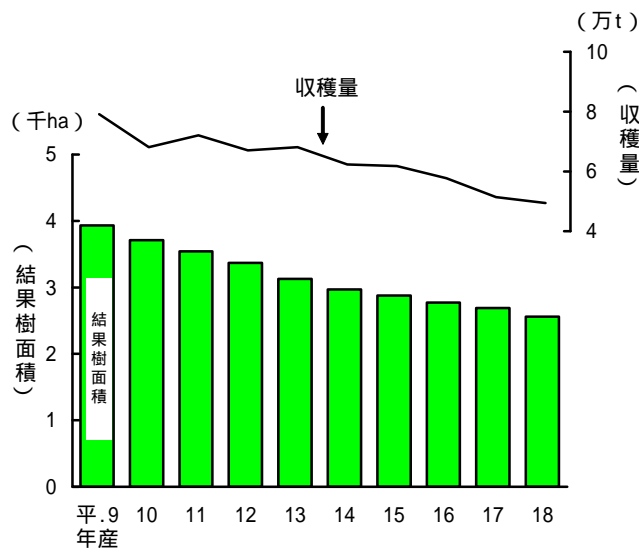


図6 平成18年産はっさくの都道府県別収穫量割合

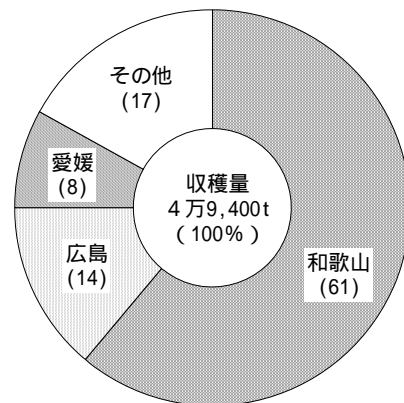


表4 平成18年産はっさくの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
はっさく	2 560	1 930	49 400	42 200	95	101	96	97

(4) いよかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は6,390haで、前年産に比べて440ha（前年産対比6%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園や優良晩かん類への転換が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,340kgで、前年産に比べて240kg（同15%）下回った。

これは、6月から7月の日照不足及び8月以降の少雨の影響で果実の肥大が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は8万5,700t、出荷量は7万6,900tで、前年産に比べてそれぞれ2万2,300t（同21%）、1万9,700t（同20%）減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、愛媛県が全国の約8割を占めている。

図7 いよかんの結果樹面積及び収穫量の推移

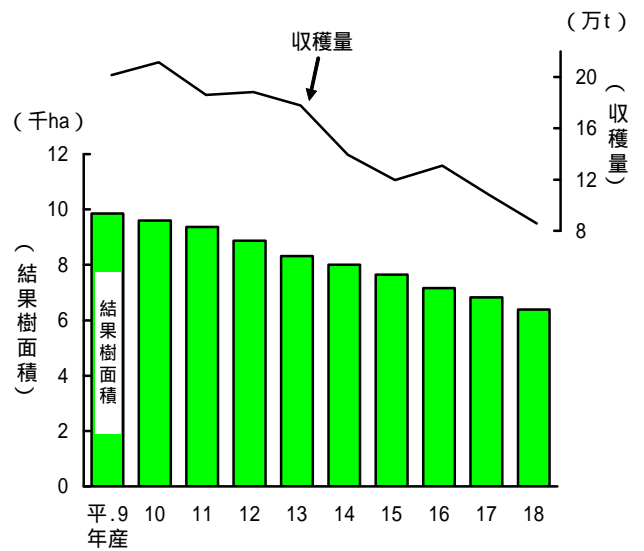


図8 平成18年産いよかんの都道府県別収穫量割合

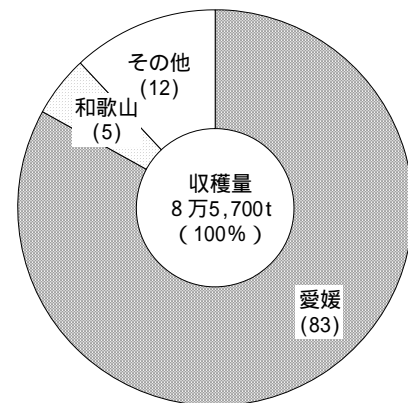


表5 平成18年産いよかんの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
いよかん	6,390 ha	1,340 kg	85,700 t	76,900 t	94	85	79	80

(5) ネーブルオレンジ

ア 結果樹面積

結果樹面積は951haで、前年産に比べて99ha(前年産対比9%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園や優良晩かん類への転換が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,100kgで、前年産に比べて150kg(同12%)下回った。

これは、8月以降の少雨の影響で果実の肥大が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万400t、出荷量は8,580tで、前年産に比べてそれぞれ2,800t(同21%)、2,320t(同21%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、広島県が23%、和歌山県が22%、静岡県が21%となっており、この3県で全国の約7割を占めている。

図9 ネーブルオレンジの結果樹面積及び収穫量の推移

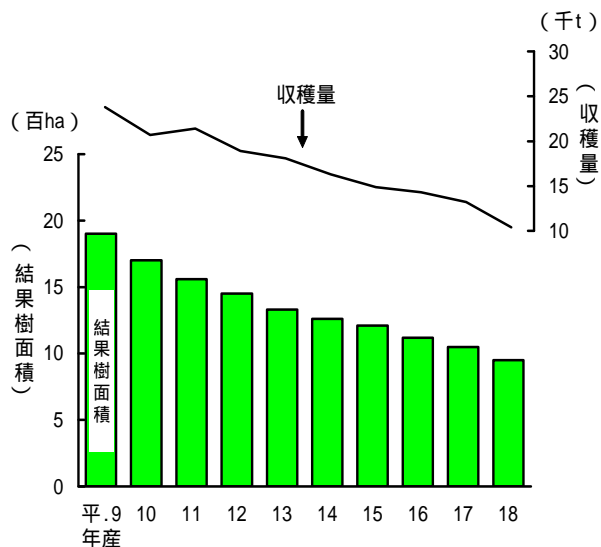


図10 平成18年産ネーブルオレンジの都道府県別収穫量割合

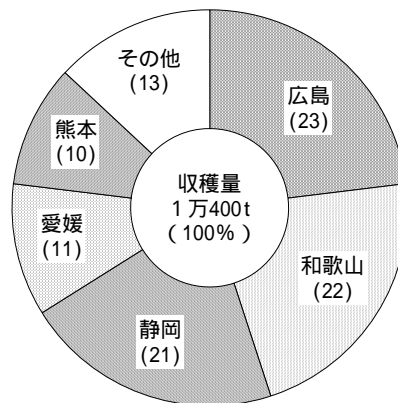


表6 平成18年産ネーブルオレンジの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
ネーブルオレンジ	951 ha	1 100 kg	10 400 t	8 580 t	91	88	79	79

(6) りんご

ア 結果樹面積

結果樹面積は4万300haで、前年産に比べて500ha（前年産対比1%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,060kgで、前年産に比べて50kg（同2%）上回った。

これは、開花期が天候に恵まれたため結果数がやや多くなったこと及び6月から7月の日照不足により初期生育は果実の肥大が抑制されたものの、8月以降高温で経過し、適雨もあったことから、おおむね回復したためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は83万1,800t、出荷量は73万9,500tで、前年産に比べてそれぞれ1万2,900t（同2%）、1万5,400t（同2%）増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、青森県が53%、長野県が21%となっており、この2県で全国の約7割を占めている。

図11 りんごの結果樹面積及び収穫量の推移

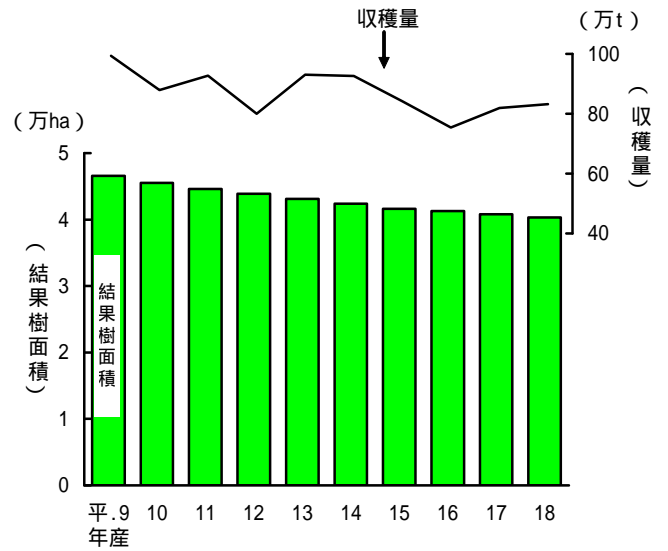


図12 平成18年産りんごの都道府県別収穫量割合

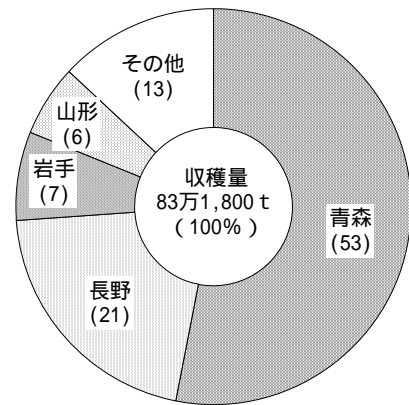


表7 平成18年産りんごの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
りんご	40 300	2 060	831 800	100	739 500	99	102	102	102
つがる	5 430	1 820	98 600	12	87 200	99	99	98	98
王林	3 630	1 960	70 900	9	63 900	97	99	97	97
ジョナゴールド	3 540	2 220	78 600	9	70 700	98	109	107	107
ふじ	20 700	2 220	460 000	55	408 000	99	103	102	102
その他	7 010	1 770	123 800	15	109 700	100	105	105	105

(7) 日本なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万4,900haで、前年産に比べて300ha(前年産対比2%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,960kgで、前年産に比べて420kg(同18%)下回った。

これは、開花期の低温による受精不良で結果数が少なく、6月から7月の日照不足及び8月以降の少雨の影響で果実の肥大が抑制されたことに加えて、カメムシ等の病害虫の被害も多かったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は29万1,400t、出荷量は26万6,600tで、前年産に比べてそれぞれ7万1,000t(同20%)、6万6,400t(同20%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、千葉県が12%、茨城県が10%、鳥取県及び福島県がそれぞれ8%、長野県及び栃木県がそれぞれ7%となっており、この6県で全国の約5割を占めている。

図13 日本なしの結果樹面積及び収穫量の推移

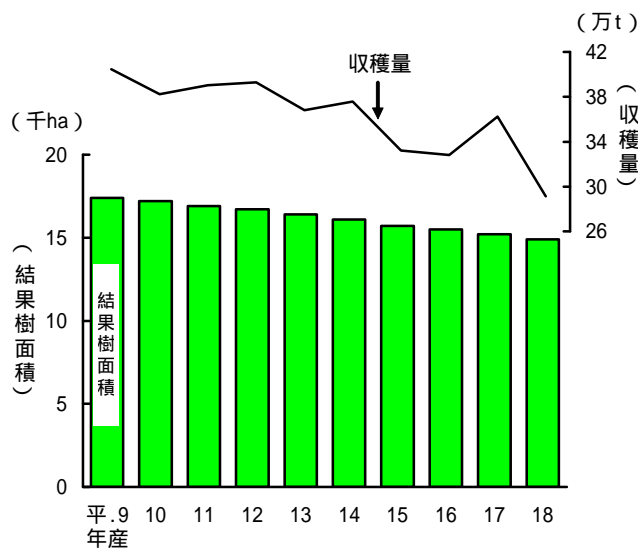


図14 平成18年産日本なしの都道府県別収穫量割合

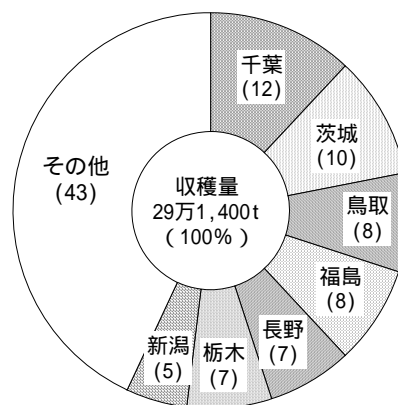


表8 平成18年産日本なしの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
日本なし	14 900	1 960	291 400	100	266 600	98	82	80	80
幸水	5 880	1 670	98 400	34	91 100	98	77	76	75
豊水	3 840	2 270	87 300	30	80 600	98	83	82	81
二十世紀	1 970	2 000	39 300	13	35 400	95	85	81	81
新高	1 320	2 440	32 400	11	29 900	98	88	87	87
その他	1 860	1 820	34 000	12	29 700	98	86	85	85

(8) 西洋なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,760haで、前年産並みとなった。
これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだものの、新植や改植したものが結果樹齢に達したためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,610kgで、前年産に比べて220kg（前年産対比12%）下回った。
これは、7月の日照不足及び長野県で8月以降の少雨の影響により果実の肥大が抑制されたことに加えて、岩手県及び山形県で10月上旬の低気圧通過による強風により落果等の被害が発生したためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万8,300t、出荷量は2万4,700tで、前年産に比べてそれぞれ4,000t（同12%）、3,800t（同13%）減少した。
都道府県別にみた収穫量割合は、山形県が60%、長野県が10%となっており、この2県で全国の約7割を占めている。

図15 西洋なしの結果樹面積及び収穫量の推移

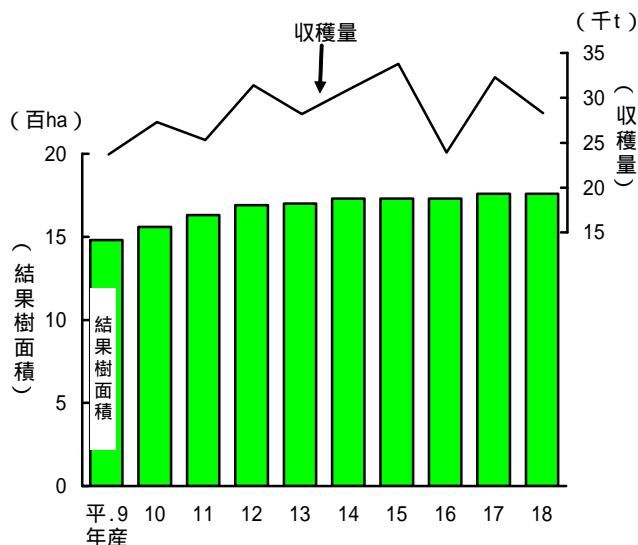


図16 平成18年産西洋なしの都道府県別収穫量割合

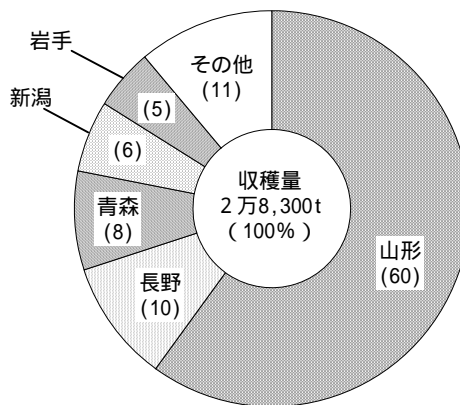


表9 平成18年産西洋なしの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収	収穫量		出荷量	前年産対比(%)			
			量	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
西洋なし	1 760	1 610	28 300	100	24 700	100	88	88	87
ラ・フランス	1 120	1 690	19 000	67	16 700	99	85	84	83
バートレット	149	1 360	2 030	7	1 780	99	100	99	99
その他	489	1 490	7 260	26	6 210	103	93	95	94

(9) かき

ア 結果樹面積

結果樹面積は2万3,500haで、前年産に比べて200ha(前年産対比1%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は990kgで、前年産に比べて220kg(同18%)下回った。

これは、7月の日照不足及び8月以降の少雨の影響により果実の肥大が抑制されたことに加え、福岡県で台風第13号による落果、愛媛県で降ひょうによる傷果等の被害が発生したためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は23万2,700t、出荷量は18万6,700tで、前年産に比べてそれぞれ5万3,200t(同19%)、4万4,100t(同19%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、和歌山県が21%、奈良県が11%、岐阜県が7%、福島県及び福岡県がそれぞれ6%となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

図17 かきの結果樹面積及び収穫量の推移

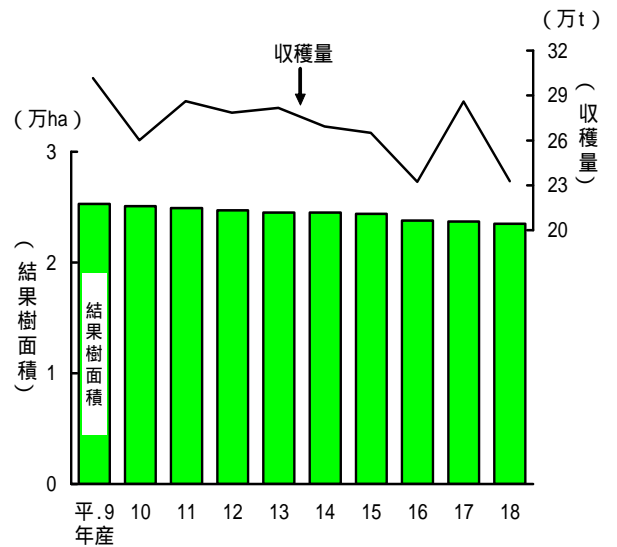


図18 平成18年産かきの都道府県別収穫量割合

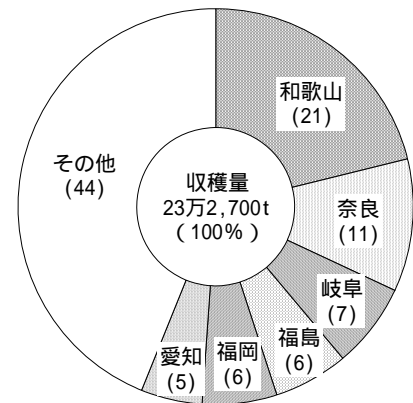


表10 平成18年産かきの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量
かき	ha	kg	t	%	t				
かき	23 500	990	232 700	100	186 700	99	82	81	81
富有	8 040	903	72 600	31	57 300	99	79	78	78
次郎	1 830	970	17 700	8	12 700	101	87	87	87
その他甘がき	2 550	587	15 000	6	10 300	98	74	72	70
平核無	2 940	1 210	35 600	15	30 900	97	82	80	79
刀根早生	2 570	1 800	46 400	20	42 300	100	83	84	84
その他渋がき	5 570	813	45 300	19	33 300	101	86	86	86

(10) びわ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,780haで、前年産に比べて110ha（前年産対比6%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は343kgで、前年産に比べて13kg（同4%）下回った。

これは、4月以降の日照不足等の影響により果実の肥大が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は6,100t、出荷量は4,880tで、前年産に比べてそれぞれ630t（同9%）、500t（同9%）減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、長崎県が35%、鹿児島県が10%、香川県が9%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図19 びわの結果樹面積及び収穫量の推移

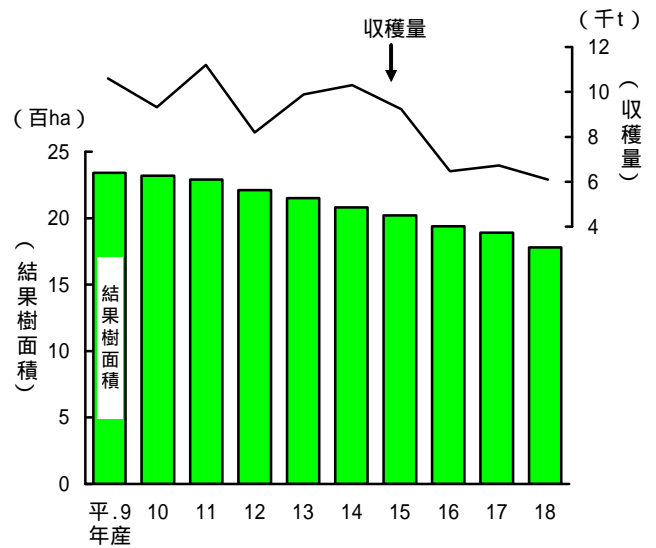


図20 平成18年産びわの都道府県別収穫量割合

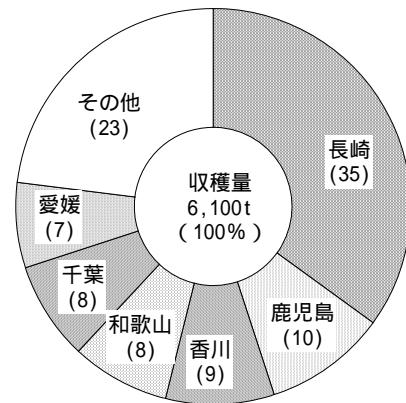


表11 平成18年産びわの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
びわ	ha	kg	t	t	94	96	91	91
	1 780	343	6 100	4 880				

(11) もも

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万300haで、前年産並みとなった。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだものの、新植や改植したものが結果樹齢に達したためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,430kgで、前年産に比べて260kg(前年産対比15%)下回った。

これは、6月から7月の日照不足等の影響により生理的落果が多かったことに加えて、長野県において7月の集中豪雨による冠水の被害及び山梨県において7月に強風を伴う激しい雷雨により落果等の被害が発生したためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は14万6,300t、出荷量は13万3,900tで、前年産に比べてそれぞれ2万7,700t(同16%)、2万6,500t(同17%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山梨県が35%、福島県が20%、長野県が12%となっており、この3県で全国の約7割を占めている。

図21 ももの結果樹面積及び収穫量の推移

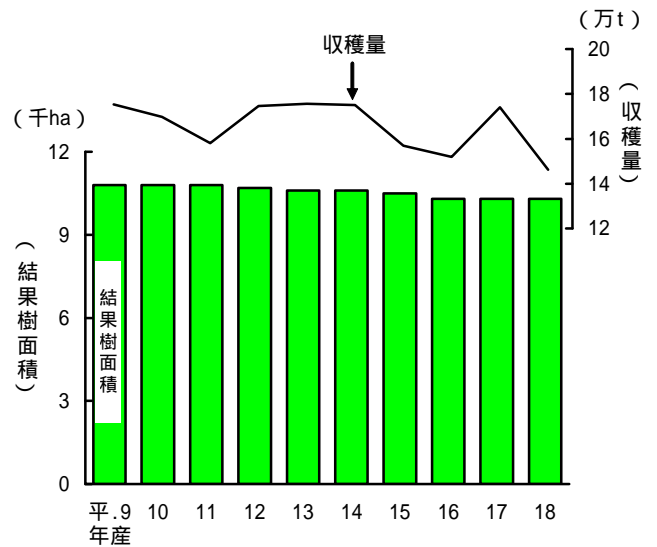


図22 平成18年産ももの都道府県別収穫量割合

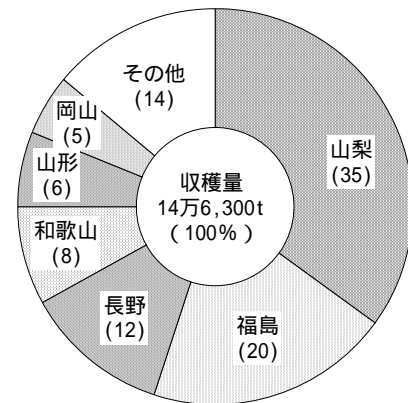


表12 平成18年産ももの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
もも	10 300	1 430	146 300	100	133 900	100	85	84	83
白鳳	1 780	1 470	26 200	18	24 100	99	82	82	81
日川白鳳	983	1 270	12 500	9	11 600	100	95	95	95
川中島白桃	1 140	1 670	19 100	13	17 400	99	84	83	83
浅間白桃	474	1 270	6 040	4	5 600	101	69	70	69
あかつき	1 430	1 650	23 600	16	21 600	101	90	90	90
その他	4 450	1 320	58 900	40	53 600	99	83	83	82

(12) すもも

ア 結果樹面積

結果樹面積は3,090haで、前年産に比べて40ha（前年産対比1%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は692kgで、前年産に比べて165kg（同19%）下回った。

これは、開花期の低温等による受精不良で結果数が少なかったことに加えて、山梨県において7月に強風を伴う激しい雷雨により落果等の被害が発生したためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万1,400t、出荷量は1万8,400tで、前年産に比べてそれぞれ5,400t（同20%）、4,900t（同21%）減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山梨県が29%、長野県及び和歌山県がそれぞれ15%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図23 すももの結果樹面積及び収穫量の推移

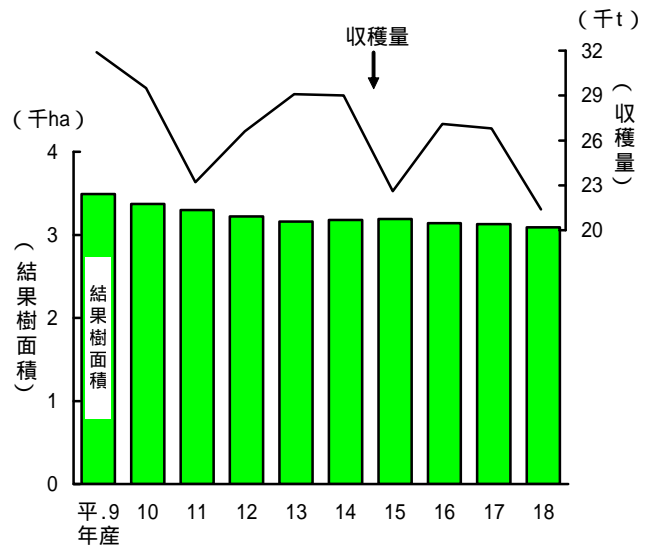


図24 平成18年産すももの都道府県別収穫量割合

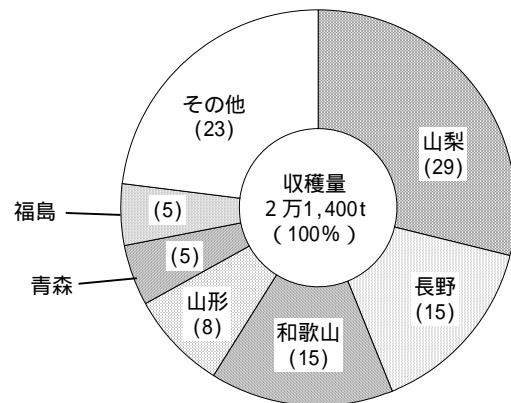


表13 平成18年産すももの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
すもも	3 090 ha	692 kg	21 400 t	18 400 t	99	81	80	79

(13) おうとう

ア 結果樹面積

結果樹面積は4,490haで、前年産に比べて110ha(前年産対比3%)増加した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだものの、新植したものが結果樹齢に達したためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は464kgで、前年産に比べて28kg(同6%)上回った。

これは、霜害のあった前年産に比べ結果数が多かったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万800t、出荷量は1万8,400tで、前年産に比べてそれぞれ1,700t(同9%)、1,500t(同9%)増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山形県が全国の約7割を占めている。

図25 おうとうの結果樹面積及び収穫量の推移

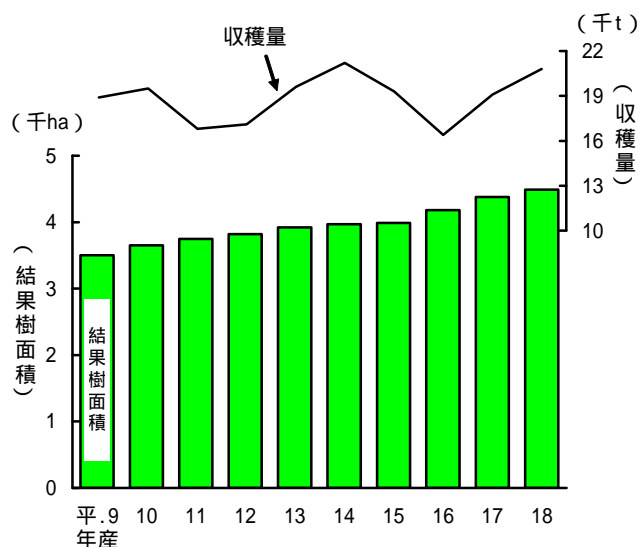


図26 平成18年産おうとうの都道府県別収穫量割合

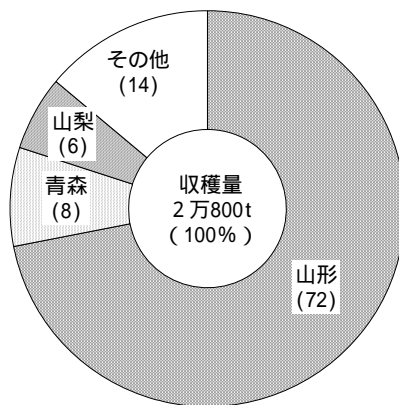


表14 平成18年産おうとうの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
おうとう	ha	kg	t	%	t				
お う と う	4 490	464	20 800	100	18 400	103	106	109	109
佐 藤 錦	2 950	526	15 500	75	13 700	104	109	112	112
高 砂	222	353	783	4	703	105	78	82	80
そ の 他	1 320	343	4 510	22	3 960	101	104	104	104

(14) うめ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万8,000haで、前年産に比べて200ha（前年産対比1%）増加した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだものの、新植や改植したものが結果樹齢に達したためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は664kgで、前年産に比べて26kg（同4%）下回った。

これは、和歌山県において3月下旬の降ひょうにより落果や傷果が多かったことに加え、6月の少雨の影響により果実の肥大が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は11万9,700t、出荷量は10万1,100tで、前年産に比べてそれぞれ3,300t（同3%）、4,000t（同4%）減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、和歌山県が56%、群馬県が7%となっており、この2県で全国の約6割を占めている。

図27 うめの結果樹面積及び収穫量の推移

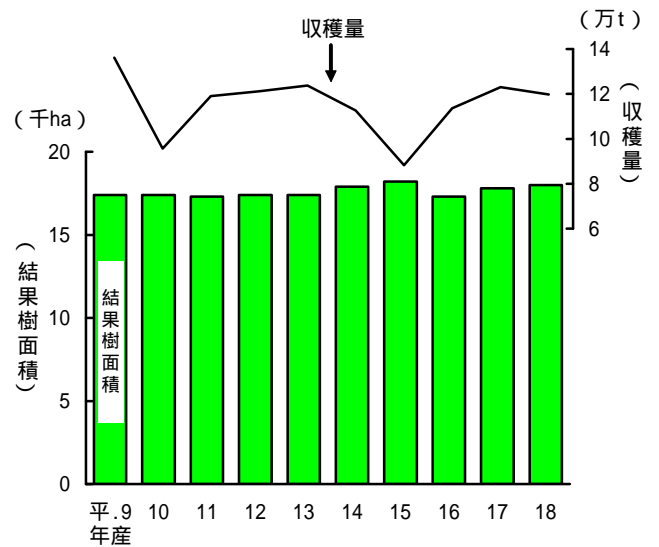


図28 平成18年産うめの都道府県別収穫量割合

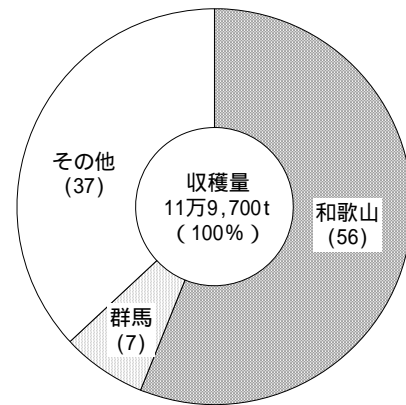


表15 平成18年産うめの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
うめ	ha	kg	t	%	t				
南高	18 000	664	119 700	100	101 100	101	96	97	96
白加賀	5 750	1 180	67 700	57	63 700	104	93	96	96
その他	3 590	425	15 200	13	10 500	99	102	100	94
その他	8 680	423	36 700	31	27 000	100	98	98	99

(15) ぶどう

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万8,900haで、前年産に比べて100ha（前年産対比1%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により廃園が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,120kgで、前年産に比べて40kg（同3%）下回った。

これは、山梨県、長野県において開花期の低温により受精不良であったことに加え、山梨県において病害の発生も多かったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は21万500t、出荷量は19万1,800tで、前年産に比べてそれぞれ9,400t（同4%）、9,000t（同4%）減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山梨県が25%、長野県が15%、山形県が10%となっており、この3県で全国の5割を占めている。

図29 ぶどうの結果樹面積及び収穫量の推移

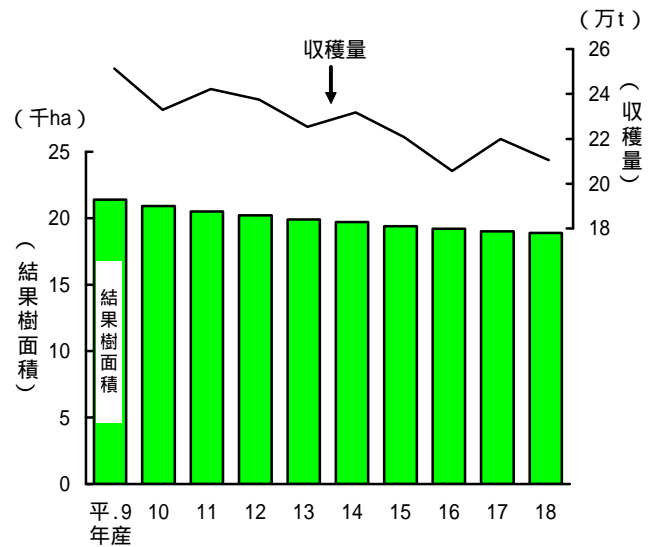


図30 平成18年産ぶどうの都道府県別収穫量割合

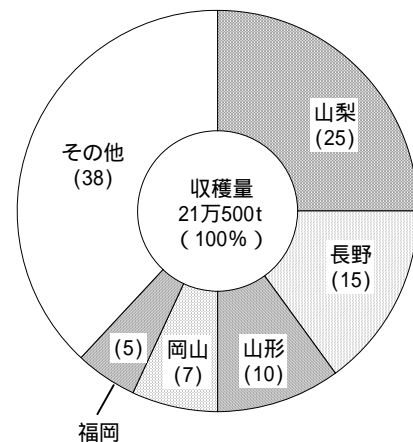


表16 平成18年産ぶどうの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収	収穫量		出荷量	前年産対比(%)			
			量	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
ぶどう	18 900	1 120	210 500	100	191 800	99	97	96	96
デラウェア	3 720	1 080	40 300	19	36 700	97	99	97	97
キャンベルアーリー	1 020	1 110	11 400	5	9 860	96	95	92	90
マスカットベリー-A	971	1 210	11 700	6	10 700	96	98	93	94
巨峰	6 360	1 060	67 100	32	61 800	99	93	91	91
ピオーネ	1 830	1 260	23 100	11	21 100	104	102	106	106
その他	4 960	1 150	57 000	27	51 700	101	97	98	98

(16) くり

ア 結果樹面積

結果樹面積は2万3,300haで、前年産に比べて500ha（前年産対比2%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は99kgで、前年産に比べて7kg（同8%）上回った。

これは、7月の日照不足及び、8月以降の少雨の影響により果実の肥大が抑制されたものの、台風の影響で前年産の作柄が悪かった四国及び、九州地域で結きゅう（毬）数が多かったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万3,100t、出荷量は1万6,200tで、前年産に比べてそれぞれ1,300t（同6%）、1,400t（同9%）増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、茨城県が21%、熊本県が15%、愛媛県が9%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図31 くりの結果樹面積及び収穫量の推移

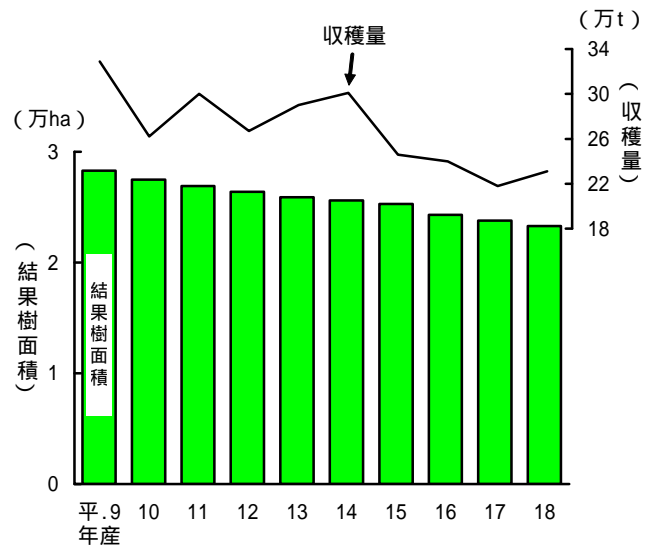


図32 平成18年産くりの都道府県別収穫量割合

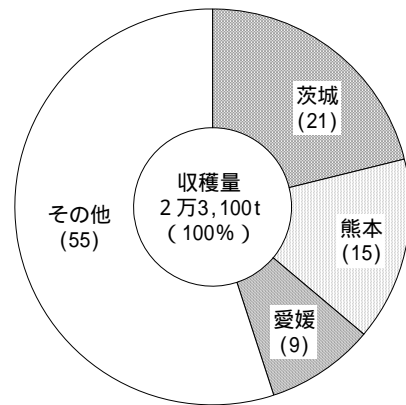


表17 平成18年産くりの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
くり	23 300 ha	99 kg	23 100 t	16 200 t	98	108	106	109

(17) パインアップル（沖縄県）

図33 パインアップルの収穫面積及び収穫量の推移

ア 収穫面積

収穫面積は441haで、前年産並みとなった。

イ 10a当たり収量

10 a 当たり収量は2,420kgで、前年産に比べて70kg（前年産対比3%）上回った。

これは、沖縄本島地域において、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから、果実の肥大が良好となったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万700t、出荷量は1万400tで、前年産に比べて共に300t（同3%）増加した。

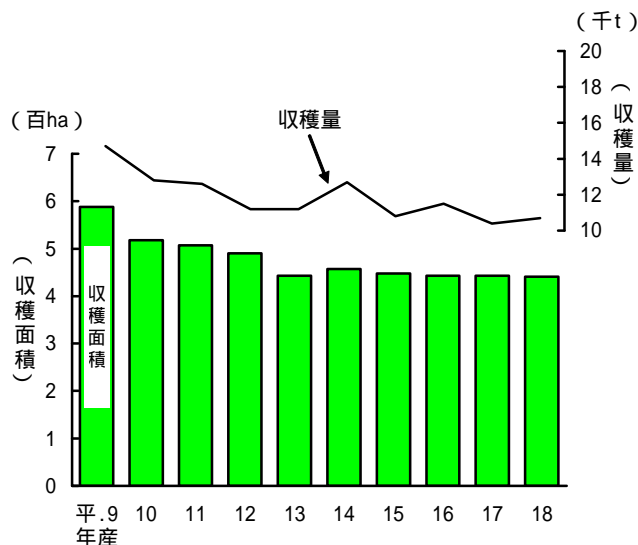


表18 平成18年産パインアップルの収穫面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品 目	収穫面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
					収 穫 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
パインアップル	ha 441	kg 2 420	t 10 700	t 10 400	100	103	103	103

(18) キウイフルーツ

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,470haで、前年産に比べて90ha(前年産対比4%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,320kgで、前年産に比べて100kg(同7%)下回った。

これは、5月から7月の天候不順により結果数がやや少なかったこと及び福岡県等で台風第13号の影響により落果等の被害が発生したためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は3万2,500t、出荷量は2万6,500tで、前年産に比べてそれぞれ3,900t(同11%)、3,500t(同12%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、愛媛県が23%、福岡県が17%、和歌山県が11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図34 キウイフルーツの結果樹面積及び収穫量の推移

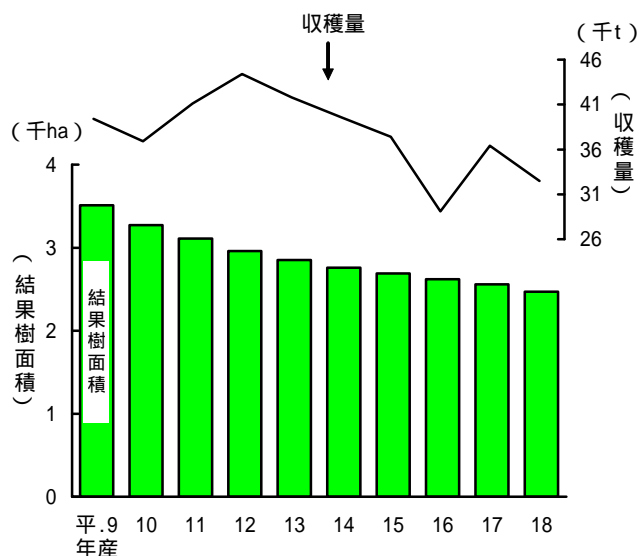


図35 平成18年産キウイフルーツの都道府県別収穫量割合

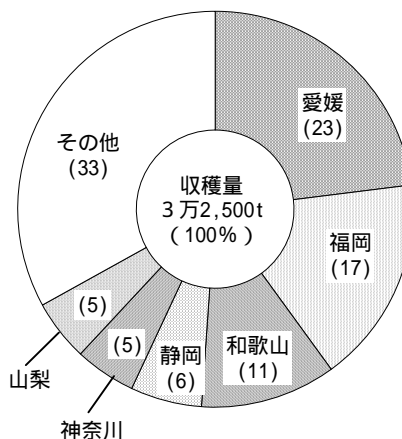


表19 平成18年産キウイフルーツの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
キウイフルーツ	2 470	1 320	32 500	26 500	96	93	89	88